

## 薬学6年制教育における新たな挑戦



巻頭言

土井 健史\*

New challenge in pharmaceutical education

Key Words : Pharmacist-Scientist, Advanced Research, Pharm.D

今から約12年前に、4年間の薬学教育により薬剤師国家試験の受験資格が得られていた制度（4年制）から、6年間の薬学教育が必要（6年制）となり、大阪大学薬学研究科・薬学部としてはどのような体制で人材を育てるか、多くの時間を費やして議論を重ねた結果、4年制と6年制を並立すること（4年制が55人、6年制が25人）で意見の一致がみられた。この時点では、4年制学科を卒業した学生でも、必要な科目、実習を受ければ国家試験を受験できるという特例が設けられており、薬学部に入學しても薬剤師になれないという事はなかった。しかしこの特例は平成29年度入学生までという期限が設けられた措置であった。

6年制がスタートしてわかってきた事は、ある程度予想はされていたことであるが、6年制の教育課程に含まれる実習が6ヶ月間にも及ぶ事などから、薬学部における基礎研究の成果がこれまでのように得られる事が難しいという現実であった。多くの私立薬科大学では6年制のみの体制にしていたため、4年制を並立している大学に比べより大きな影響を受けたと思われる。

この経過措置が平成29年度入学生までで終わるという事から、4年制を並立している大学においては、その対応が非常に大きな問題となり、大阪大学薬学

研究科では全教員が参加する会議を何度も開き、時間をかけて議論をおこなった。

大阪大学より先に京都大学で結論が出されたが、それは6年制の定員を減らし、4年制を増やすというものであった。これは、これまでの6年制課程ではどうしても学生が基礎研究に専念できる時間が減り、研究力の低下をきたすため、これを回避するために行った選択と思われた。大阪大学の場合も同様の選択肢をとる議論も行われたが、薬学部としては資格をとる権利を重要視すること、また学生ができる限り研究を中断されることなく、まとまった研究期間で研究をまとめることができる体制を確保できれば、6年制でも研究力を落とさずに成果を出していけるという考えに至った。すなわち、まとまった研究期間の確保が大切で、新しい6年制創出の重要なポイントと考えた。そこでそれが可能となる仕組み（原案）を考え、文部科学省、厚生労働省、薬学教育評価機構、薬学共用センター、薬学教育協議会、日本薬剤師会などからのご意見、ご指導を受け、現在の最終案にまで至った。まとまった研究期間を確保する方法としては、これまで行っている実務実習の時期をずらし、さらに学生の研究室への配属を1年間前倒しにすることで研究期間を確保することを考えた。幸い我々は、この議論が沸騰する1年ほど前から、学生の研究室配属をこれまでの4年生から3年生に前倒しすることを始めており、動き出す準備はできていた。

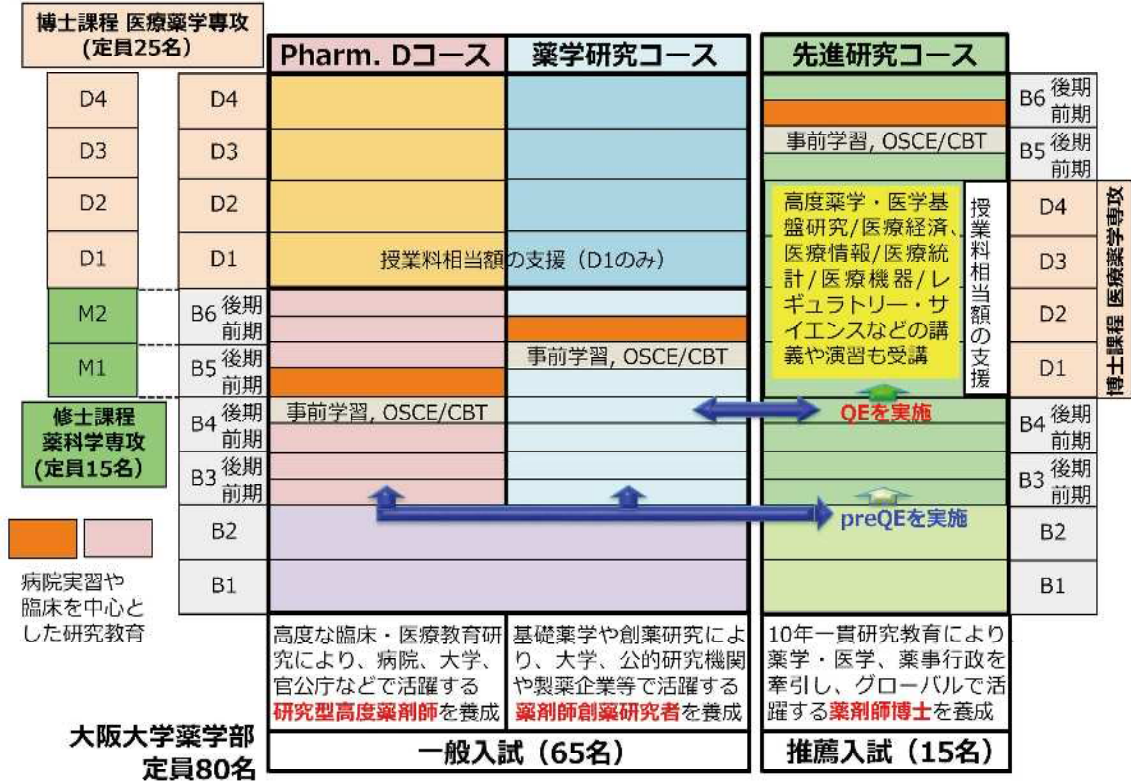
このようにして設計した新しい6年制（新全6年制）の概要を図に示す。入学者80名を、3つのコースに分けて教育・研究する仕組みにしている。臨床・医薬連携研究の「Pharm.Dコース」、基礎・創薬研究の「薬学研究コース」、Pharmacist-Scientistを養成する「先進研究コース」の3つのコースを設定した。ここで一番大きな特徴としては、10年一貫の



\* Takefumi DOI

1955年8月生まれ  
大阪大学薬学部製薬化学科卒業（1979年）  
大阪大学大学院薬学研究科博士課程修了（1984年）  
現在、大阪大学 大学院薬学研究科  
生命情報解析学分野 教授 薬学研究科  
長・薬学部 長 薬学博士  
生物有機化学、分子生物学  
TEL : 06-6879-8158  
FAX : 06-6879-8158  
E-mail : doi@phs.osaka-u.ac.jp

## 大阪大学薬学部「新全6年制」薬学教育システム開始と 大学院薬学研究科との一体化による薬学教育改革（予定）



「先進研究コース」を設置したことである。このコースは6年制学部の4年生修了時に一旦休学し、大学院博士課程に進み4年の課程を経て博士の学位を取得するコースで、その後、復学したのちに5、6年生で薬剤師受験資格を得るための教育、実習を受け、卒業することになる。このコースでは、6年間の連続した研究期間を確保できている。研究力のある薬学博士をもった薬剤師 (Pharmacist-Scientist) を育成することが可能となる。また大学院の4年間については、授業料に相当する額の学費援助を行うことにしている。ただ基本的には、このコースに入れるのは、推薦入試によって入学した学生であり、一般入試で入った学生については最初からの選択はできない。一般入試で入ってきた学生は、3年生の時に「Pharm.Dコース」か「薬学研究コース」を選

択することになるが、前者は医療に進むことを見据えた臨床研究を行うコース、後者は基礎・創薬研究を極めるコースである。「薬学研究コース」の場合は、事前学習、病院・薬局実習を5年生の後期以降に実施し、3年生から2年半のまとまった研究期間を確保している。この後に大学院に進んだ場合でも、1年間の授業料相当額の支援を行う。また国家試験に合格していれば、薬剤師としてのアルバイトが可能で、学費負担が低減できる。

以上、大まかに新全6年制を紹介したが、このこれまでに例を見ない我々の教育システムによって、大阪大学は、薬剤師、薬学領域の新たなリーダーとなる人材を生み出し、医療の発展に貢献できる人の育成に、より一層努めていきたい。